

1. 自然環境評価の概要

1.1 発刊の目的

平塚市の平野部は、市街化が進んでおり、まとまりのある縁は、土屋や吉沢地区などの西部丘陵地域に残されています。西部丘陵地域は、平塚市の西に位置し、鷹取山山麓から愛宕山にかけての丘陵地と、座禅川や不動川流域一帯を指し、市内でもっとも自然環境が豊かな地域です。自然環境評価書は、このような西部丘陵地域において、保全策を講じるための基礎資料とするために作成しました。

この地域の自然の特色は、人が自然とかかわりながら暮らしてきて成り立った里山^{*1}としての環境を保っていることです。評価にあたっては、今どのような自然があるのかということだけではなく、その自然をつくり、維持してきた人の暮らしや証が、どの程度残されているのかを調べることにより、総合的に「里山らしさ」がよく残されている場所を把握できるようにしました。

評価は、2年間にわたって行いました。2004年（平成16年）は、生物編として、生物の生息場所や生物の分布状況などを調べ、「自然環境評価書（生物編）」を発刊しました。2005年（平成17年）は、景観や人とのふれあい場所、歴史、文化などを調べ、「人とのかかわり評価」を行い、「総合評価編」としてまとめました。

1.2 神奈川県の中の平塚市

平塚市は、神奈川県のほぼ中央、相模平野の南部に位置し、面積は約68km²で、人口は259,110人（平成18年1月1日現在）です。背後には丹沢、大山山麓を控え、西方には富士、箱根連山を遠望でき、四季を通して温かな気候に恵まれたまちです。

市の南部は相模湾に面し、東に流れる相模川と北から南西へ下る金目川水系の下流域には発達した平野が広がり、西部には丘陵地域が形成されています。

▼上空からみた西部丘陵地域（2004年12月30日撮影）

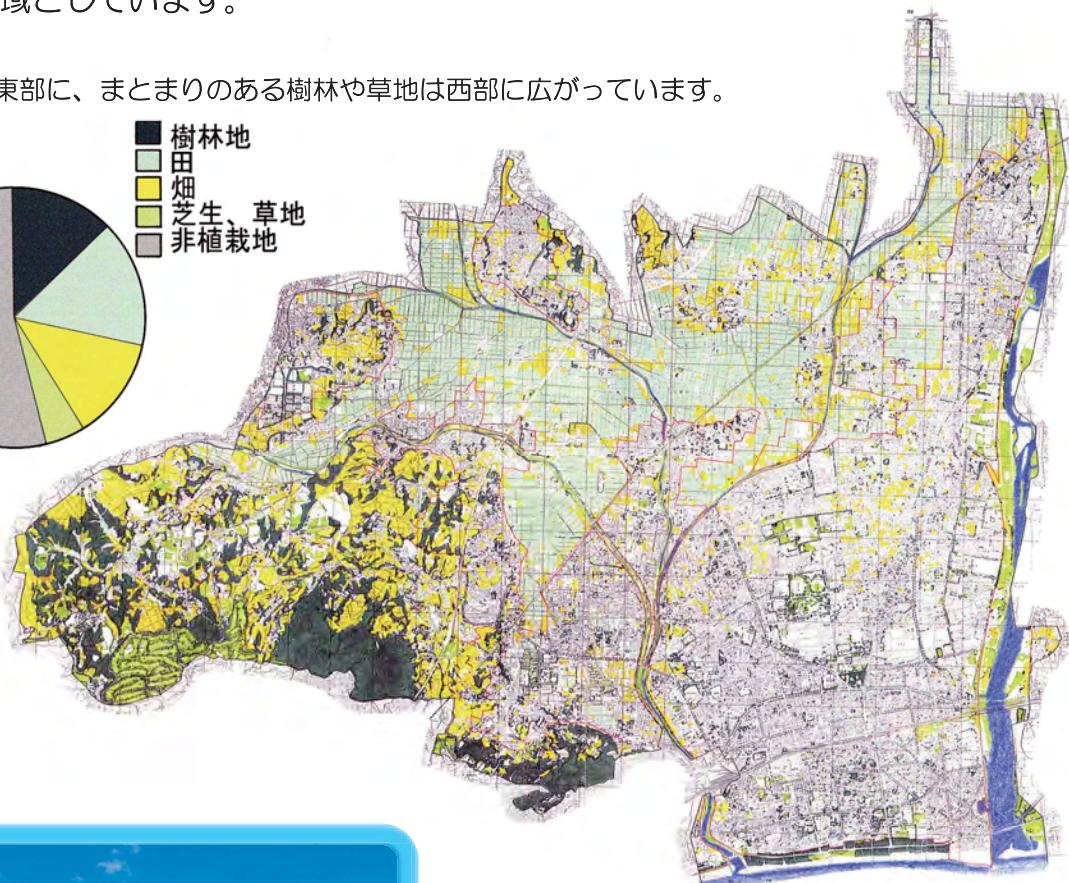
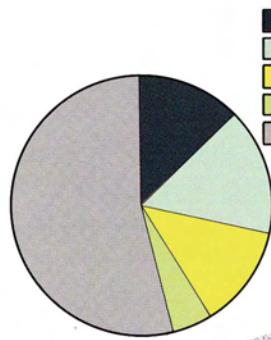


1.3 平塚市の緑の状況と調査地域

平塚市の平野部は、市街化が進んでおり、まとまりのある緑はおもに西部丘陵地域に残されています。

「平塚市自然環境評価書」では、この西部丘陵地域の中心となる土屋、吉沢地区約12k m²を調査対象地域としています。

市街地は市の東部に、まとまりのある樹林や草地は西部に広がっています。



■平塚市の緑地の分布状況

「平塚市緑の基本計画」より



▲平塚市の西部にみられる緑地

愛宕山からみた風景

(土屋 2005年9月17日撮影)



調査地域 ➤

まとまりのある緑が残る、西部丘陵地域を
自然環境評価のための調査地域としました。

*1 里山：人びとの生活と結びついた、森林や農地が一体となった人里の環境

1.4 調査地域の概況

調査地域の南東部および西部にまとまりのある緑をみることができます。

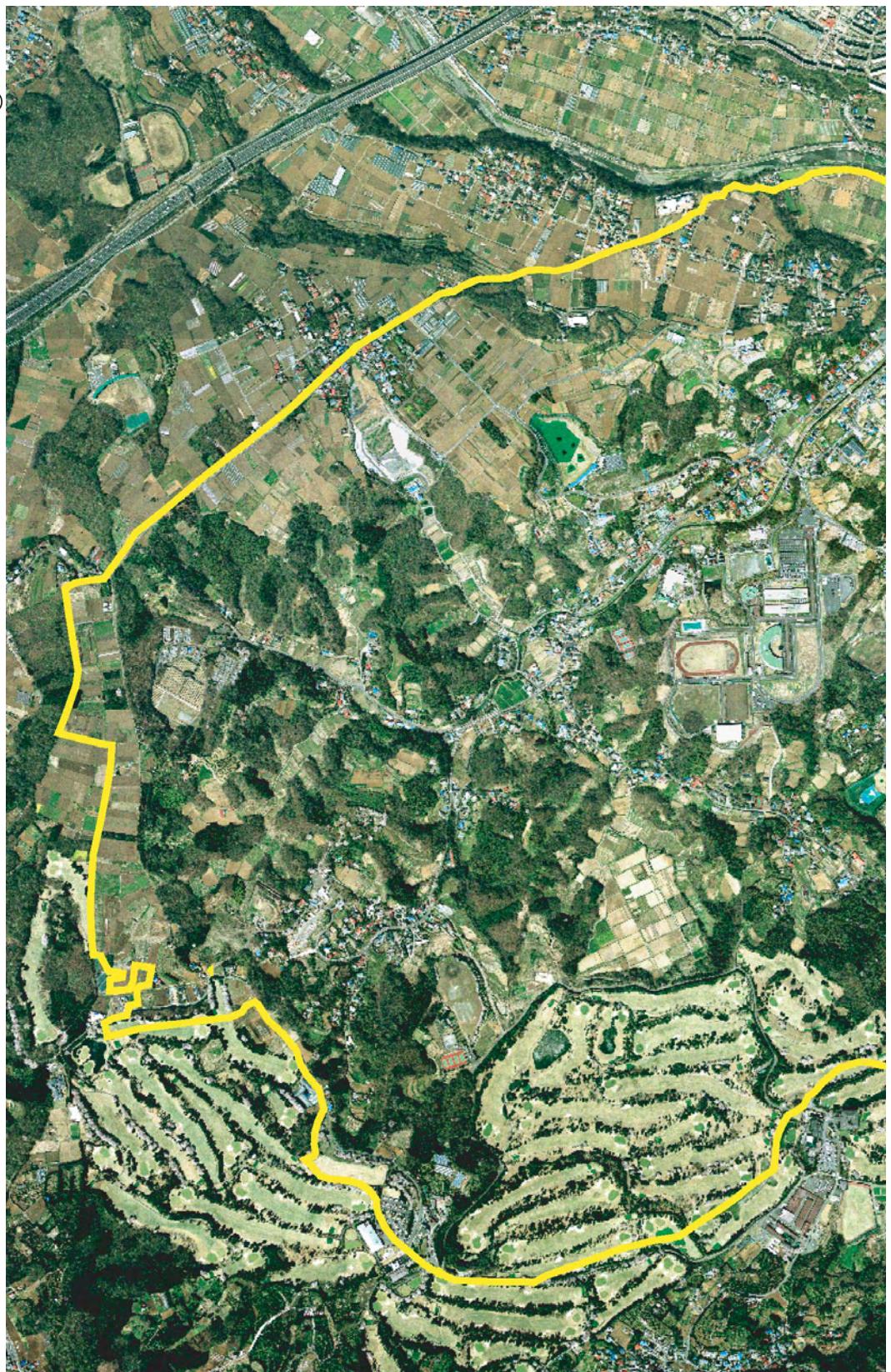
地域内でもっとも広い南東部の緑地は鷹取山へと続きます。

西部のモザイク状に広がる緑地は、谷戸^{*2}や畠地、草地が混在する変化に富んだ環境です。

■上空からみた

調査地域

(写真の左下はゴルフ場)



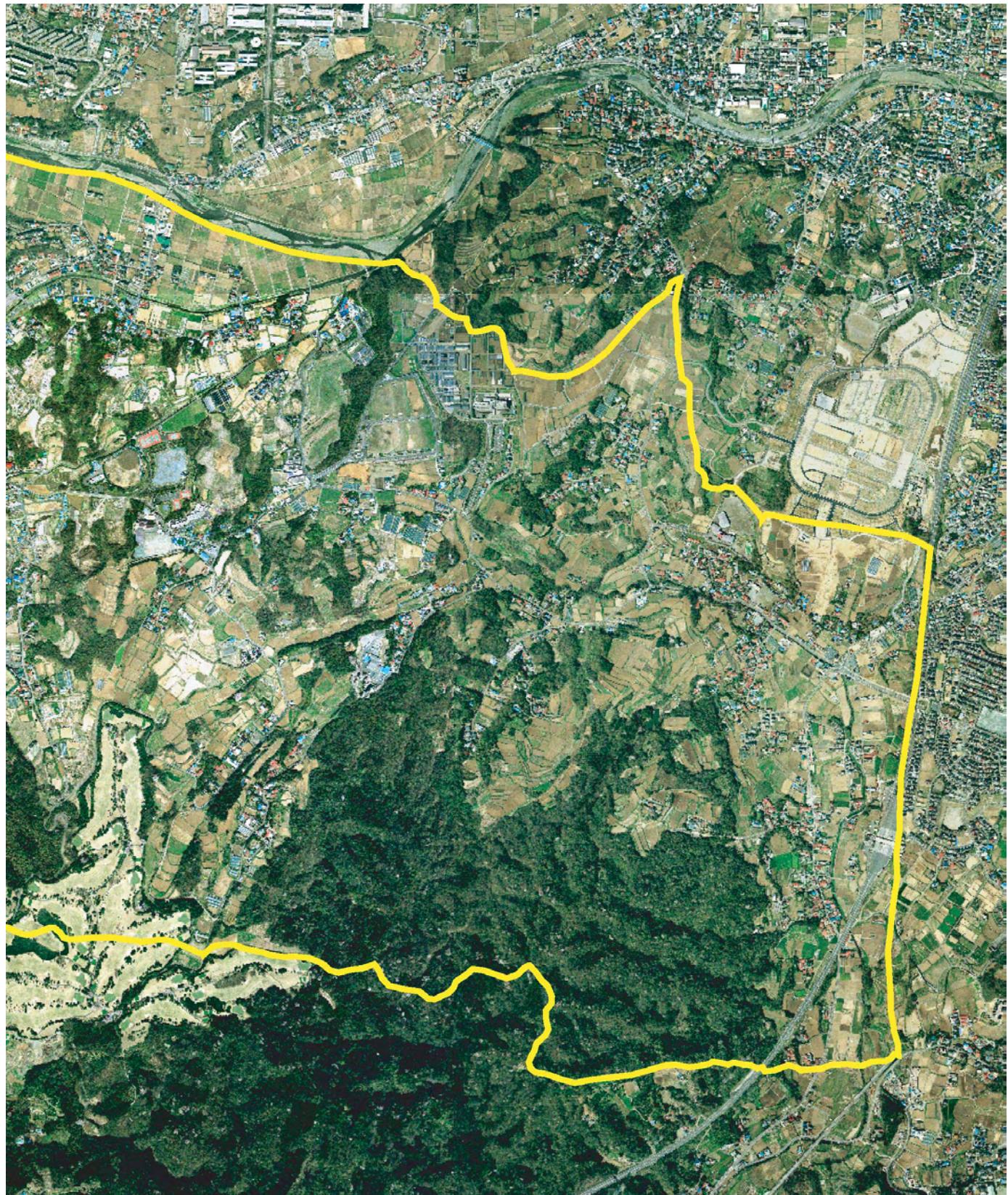
□ 調査地域

(2001年4月撮影)

*2 谷戸：丘陵地の谷間の低地。多くが水田として利用されてきた。水辺と樹林がセットであるので、

0

1km



多様な生物が生息する。